

ハグロフタオビドロバチ

Anterhynchium melanopterus Sk. Yamane
ハチ目・ドロバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

今回新たな生息地が見つかり、生息確認地点数は増加したが、各生息地での個体数は非常に少ない。生息環境は悪化しているが、危機的状況とは言えないことから、絶滅危惧Ⅰ類から絶滅危惧Ⅱ類にランクダウンした。

種の特徴

体長 16 mm前後、翅は黒ずんでおり、頭楯上の横紋と前胸背板上の2小斑のほかに、頭胸部はほとんど黒色。胸部後半部は広く窪み、腹部に2本の橙黄色の帯状紋を有する。竹筒や甲虫類が作った朽木の坑道内に巣を作る。ガ類の幼虫を狩る。

分 布

本州～九州に分布。県内では大野市真名川の河原と今庄町日野川の川沿いで記録があった。今回、福井市白方町、大野市持掛谷、永平寺町山王、あわら市北潟東で新たに見つかった。

生息を脅かす要因

河川域の改修や里山付近の土地造成が脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、羽田 (2005a)、室田ら (2008)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○		○			○			○	○

ヤドリホオナガスズメバチ

Dolichovespula adulterina montivaga Sk. Yamane
ハチ目・スズメバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

もともときわめて稀な種であり、今回の調査では確認されなかった。山岳地域に生息し、県内の既知生息地の一つは国立公園の特別保護地区に指定されていることから、本種の生息状況は危機的とは考えられず、絶滅危惧Ⅱ類にランクダウンした。

種の特徴

体長雌 16～18 mm、雄 14～18 mm。体は全体に黒色で、斑紋は象牙色ないし黄色。雌の頭楯上の黒斑が頭楯上縁に達しないこと、雄の後胸背板の白紋は退化して2小点であることから、近似種と区別できる。シロオビホオナガスズメバチに社会寄生し、働きバチを産しない。

分 布

北海道、本州に分布。県内では大野市小池、三ノ峰、三面での記録がある。今回は大野市の山岳地帯を中心に調査が行われたが、本種の確認には至っていない。

生息を脅かす要因

山岳地帯での森林の伐採、林道の開発等が脅威となる。県内の既知生息地のひとつである大野市三ノ峰一帯は白山国立公園の特別保護地区に指定されており、開発等の心配はなく、本種の生息環境はある程度保存されていると期待される。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、環境省 (2015)、高見澤 (2005)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

フジジガバチ

Ammophila clavus japonica Kohl
ハチ目・アナバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

今回の調査で生息が確認されたのは2地点のみ。うち、本種が確実に営巣をしているといえるのは1地点のみである。県内では絶滅の危険性が高まっている。

種の特徴

体長は雌 30～35 mm、雄 25～30 mm。雌は体が黒色で腹部は藍色を帯び、触角柄節の中央、脚の腿節・脛節及び腹柄第1・2節の一部が赤褐色。雄は腹柄の第2節の一部が赤褐色だが、ほかは黒色。低山地の裸地に営巣し、ウスムラサキクチャの幼虫を狩る。

分 布

本州～九州、南西諸島に分布。県内では旧芦原町、福井市、大野市、旧武生市、旧松岡町の低山地で記録があった。今回の調査ではあわら市北潟湖周辺で確認された。

生息を脅かす要因

山地の道路の舗装、土地造成等で営巣地が減少している。県内で本種が確実に営巣しているのはあわら市北潟湖周辺のみである。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、平嶋・森本 (2008)、環境省 (2015)、室田 (2005)、野坂・黒川 (2002)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
										○		○	○			○	○